



11月附幼だより

令和6年10月31日

火の熱さ、焼き芋のおいしさ…実体験をさせたい

附属旭川幼稚園園長 佐藤 公文

「秋の園庭整備」は保護者の皆さまの力をお借りして無事終わりました。今は園周辺の落ち葉の片づけにご協力いただいています。感謝申し上げます。そろそろ、雪が積もってもいいような季節ですが、今年は積雪が遅くなりそうです。天気予報を見ると、11月5日(火曜)に雪の予報が出ています。でもまだ寝雪にはならないでしょう。右の写真のように、旭岳もやっと白くなった程度です。



附属幼稚園恒例の秋のイベント「サンマ焼きパーティー」と「焼き芋パーティー」も楽しく、おいしく終わりました。ところで、なぜ、海でもないのに「サンマ焼きパーティー」、サツマイモの産地でもないのに「焼き芋パーティー」なのでしょう？園職員の先輩から以前聞いた話ですが、「サンマ焼き」はもともと園の畑で採れた大根を「おいしく食べるためにどうしたらよいかなあ」と教職員が考え、「サンマを焼いて、大根おろしと食べるというのはどうだろう？」と考え、始まったようです。今の園児も焼いたサンマ1本を上手に食べます。幼稚園の良い伝統が続いています。さらに、実習に来た学生のお別れ会を兼ねていたということもあるようです。また、焼き芋パーティーについては詳しいことはわからないのですが、以前、市内の小学校で自然体感学習をする学校が多く、秋の自然学習の中で、公園の落ち葉を集めて焼き芋を作ろうという授業をした学校もあります。私の想像では附属旭川幼稚園はたくさんの木に囲まれて、たくさんの落ち葉があったということから「焼き芋を焼いたら楽しくておいしい」と始まったのではないのでしょうか。この2~3年は、幼稚園で収穫したサツマイモを使って焼き芋を作っています。今年は収穫から1か月寝かせたのででんぷん質が糖に変化して甘くなっています。さらに、おひさま組はマッチを使って火をつけるということも体験します。今の子供たちは家庭の中で“火を見る機会が少なくなって良い経験になったと思います”これからも附属旭川幼稚園の文化・伝統として続いてほしいものです。

学校教育も世の中も、何でも便利になって、スマホやパソコンを見ることで大体のことが解ったり、用事が済んでしまうことが増えています。でも、情報を便利に使うためにも、子供の時は本物の体験の方が大事だと思っています。マッチに火をつけた時のドキドキ感や火の熱さ、少し怖い感じ…そんなことを感じることは大人になっても忘れないものです。



焼き芋をする時は消防署に届けを出しています。専門店にはかありませんが、オープンでもおいしい焼き芋ができます。